

EVIは北陸地区カーボン・オフセットセミナー&交流会 で講演とブース出展！

2015年2月20日(金) 金沢市北國新聞社



北陸地区カーボン・オフセットセミナー&交流会は、金沢市街を一望できる北國新聞社13階会議室に約30名の参加者を集めて開催。北陸地区では、昨年未より、氷見、富山、金沢と精力的に説明会を行っており、加藤も昨年11月末の氷見に続き、北陸エリアでは2回目の登壇となりました。

カーボン・オフセット商品の開発事例では、本日もう一人の講師として参加しているウェストボックスの鈴木社長と共同開発を行った「フルーツドライアップル」を取り上げ、初のEVIマークを活用した商品であり、農業(未利用農作物を使用)、林業(クレジットを活用)を繋ぐ環境貢献商品として注目を集めました。

ウェストボックスの鈴木社長からは、「JVERによって、地域と繋がった取り組みとしてのカーボン・オフセットが出来るようになりました」とのお言葉があり、もともとリサイクル事業から起業された背景もあり、フルーツドライに代表されるように、未利用資源を有効利用し、地域と密着した様々なオフセット事例が発表されました。休憩中も、講師や関係者に対し、積極的な名刺交換や意見交換を求める参加者で会場は熱気に包まれていました。

後半のパネルトークでは、講師の加藤、鈴木社長をアドバイザーに迎え、石川県農林水産課の土井様、森の暮らし研究所の江尻様、あわら三国もりもりバイオマスの吉村様がパネラーとなり、北陸大学孔子学院の三国様のコーディネートにより、「つむぎだせ、森から始まり、森に還る物語」を題材に、様々なアプローチからの森を守る取り組みについて発表があり、参加者とのコミュニケーションとしっかりと図りながら、有意義な時間が流れていました。

カーボン・オフセットという枠組みに捉われることによって、特徴ある商品が平準化されてしまうのでは、という意見も上がりましたが、「EVIは、いいひと・いいしな・いいくぎ」をテーマに取り組んでおり、それぞれの商品にそれぞれの想いがある、それが一色単になることはありません」と加藤から明確な回答。和気藹々の雰囲気の中にも、参加者ひとりひとり熱い眼差しが感じられるセミナーとなり、今後の北陸地区の明るい未来を感じさせる内容でした。



EVI加藤は昨年11月末の氷見に続き、北陸エリアでは2回目の登壇



後半のパネルトーク



参加者とのコミュニケーションタイム

